

- 水生生態学的研究 II. 雨生池 (南蒲原郡下田村吉ヶ平) の陸水生生態学的研究. 新潟大学教育学部紀要 (自然科学) 27: 9—12.
- 福原晴夫・熊倉達也・渡辺辰弘, 1984. 新潟県湖沼の陸水生生態学的研究 I. 吉ヶ平大池 (南蒲原郡下田村吉ヶ平) の陸水生生態学的研究. 新潟大学教育学部紀要 (自然科学) 26: 7—21.
- 福原晴夫・緒方猛・石野光一, 1988. 新潟県湖沼の陸水生生態学的研究 V. 坊ヶ池 (中頸城郡清里村) の陸水生生態学的研究. 新潟大学教育学部紀要 (自然科学) 30(1): 1—17.
- 堀江正治, 1957. 越後国坊ヶ池の湖盆形態と湖周の地形. 陸水雑 19: 23—28.
- 水野寿彦, 1982. 日本の淡水産枝角類. 「中国/日本淡水産枝角類総説」(諸南山編著), pp. 101—204, たら書房.
- 新潟県, 1987. 湖沼調査報告書. 新潟県.
- 新潟県環境保健部, 1989. 湖沼自然環境実態調査報告書. 新潟県環境保健部環境保全課.
- 西村昌彦, 1980. 深泥池のミツガシワ地下茎の成長について. 第27回日本生態学会大会講演要旨 44.
- Nishimura, M., 1983. Rhizome growth and matter production of the common buckbean, *Menyanthes trifoliata* L. Physiol. Ecol. Japan 20: 115—128.
- 大滝末男, 1974. 日本におけるオニバスの分布. 植物研究雑誌 49: 168—172.
- 田中阿歌麿, 1930. 日本アルプス湖沼の研究. 古今書院.
- 坊ヶ池土地改良区, 1982. 坊ヶ池土地改良区誌. 坊ヶ池土地改良区.

○阿部近一著『徳島県植物誌』(教育出版センター発行、1990年7月、580頁)

本書の前書きに次のように述べられている。“本植物誌こそは、60年間に亘る、私の脚がかせいだ植物誌といっても過言ではない。”まさにそのとおりの内容である。まず冒頭には108頁にわたる写真と27頁の図版があり、徳島県の植物とその研究史の一端を知ることができる。本文は、他の多くの植物誌がそうであるように、徳島県の地理や気象についての説明から県下の植物相とその分布特性に進んでいくが、ポイントをまとめたというより著者のフィールドノートという趣がある。池沼植物相についてもそのとおりであって、どこの湿地でどのような植物を記録したということが具体的に書き留めてある。心なきマニアにかからなければ貴重な記録である。徳島県にオニバスの産地が10ヶ所もある(あった)ということは、私も知らなかった。

本書の中心は350頁近くに及ぶ植物目録で、標本の採集地も全て記録されている。疑問の残る記録は注意深く省かれているようで、これもこの植物誌を信頼できるものになっている。この目録から水草を拾ってみると、西南日本にありそうな種はほぼ挙がっているが、フサモ属、タヌキモ属、アオウキクサ属など、見直してみたいものがいくつかある。これは、著者も述べているように後進である我々の仕事だろう。これを基礎に、徳島県の水草

についてより詳しい調査が進展することを期待しよう。

(角野康郎)

○『香川の自然と植物』(高松市立図書館編集・発行、美巧社出版、1990年3月、252頁、1,500円)

市民が自然、特に植物の興味深い世界を知り、それに親しむための手引きとも言うべきハンディな本である。執筆は、本会とも関係の深い香川植物の会のメンバーが当たっておられる。1. 香川の植物概要、2. 親子で親しむ植物観察、3. 植物たちの自然史探訪、4. 香川の植物あれこれ、の4章からなる。第3章にある「オニバス物語」(久米修)と「ミズアオイの観察」(赤木綵子)はとりわけ興味深い。地元の植物を紹介しようとする類書は他府県にも多いが、あらかじめ植物について興味なり知識を持っていないと取り付きにくい、と思われるものがほとんどである。その点、本書は、なんの予備知識もない市民が手に取っても、身近な自然からいつの間にか植物の世界に触れることができる内容と構成になっている好著だと思う。

(角野康郎)